

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告

平成2年度

八千代市教育委員会

本文・図版目次

本文目次

例言

第1章 調査に至る経過	3
第2章 各遺跡の概要	4
第1節 高津新田野馬堀遺跡の概要	4
第2節 高津宮ノ前遺跡の概要	7
第3節 間見穴遺跡の概要	8

調査組織表

挿図・図版目次

第1図 市内全域図	2
第2図 位置図	5
第3図 遺構配置図	5
第4図 土層堆積図	6
第5図 下野牧想定図	6
第6図 位置図	7
第7図 グリッド配置図	7
第8図 位置図	9
第9図 遺構配置図	9
第10図 土層断面図	10
第11図 遺物実測図	10
図版1 高津新田野馬堀遺跡	11
図版2 高津新田野馬堀遺跡	12
図版3 高津宮ノ前遺跡	13
図版4 間見穴遺跡	14
図版5 間見穴遺跡	15

例 言

1. 本報告書は、市内遺跡発掘調査事業として、八千代台西9丁目451-4外に所在する高津新田野馬堀遺跡、高津字大門439-1外に所在する高津宮ノ前遺跡、島田台字寅高入790-4外に所在する間見穴遺跡について報告した。
2. 本事業は、国庫補助事業及び県費補助事業として発掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、平成2年7月3日～平成3年3月19日に亘って、整理作業は、平成3年3月13日～同月27日に亘って行なった。
4. 発掘調査及び報告書作成は、森が行なった。
5. 本書の執筆、掲載写真の撮影は森が行なった。



第1図 市内全域図

(国土地理院発行 1:50,000 住倉上り転載加算)

第1章 調査に至る経過（第1図）

高津新田野馬堀遺跡は、平成2年4月末に丸九運輸株式会社代表取締役水口晴夫氏より文化財の所在の有無及びその取り扱いについて（照会）が提出された。目的は、寄宿舍建設とのことであった。これを受けて市教委では、現地踏査を行なった。現況は千葉市境の畑地であったため畑部分で土器等の分布について行ったが、確認されなかった。ただこの市境部分に江戸時代の野馬土手が、以前つくられていたとのことから、野馬堀が遺存している可能性があると考えられたためこの部分について遺跡が所在する旨回答した。その後協議を行ったが、計画変更がむずかしいとのことから発掘調査を実施することとなった。県文化課にこの旨を打診し、今年度の国庫補助対象事業として確認調査を実施できるか確認をとって調査準備に入った。調査は器材の搬入、レベル移動等を含めて平成2年7月3日～同年7月19日に亘って実施した。（遺跡番号No251）

高津宮ノ前遺跡は、平成2年5月に飛栄産業株式会社取締役社長飛嶋 奏氏より文化財の所在の有無及びその取り扱いについて（照会）が提出された。これを受けて市教委では、現地踏査を行なった。その結果畑地跡の照会地全域において土師器、須恵器が部分的に少量確認されたので同年5月遺跡が所在する旨事業者に回答した。その後協議を行ったが、計画変更がむずかしいとのことから発掘調査を実施することとなった。県文化課にこの旨を打診し、今年度の国庫補助対象事業として確認調査を実施できるか確認をとって調査準備に入った。調査は、器材の搬入・撤収を含めて平成2年7月31日～同年8月7日に亘って行なった。（遺跡番号No235）

間見穴遺跡は、平成2年7月に佐藤幸蔵氏より文化財の所在の有無及びその取り扱いについて（照会）が提出された。これを受けて市教委では現地踏査を行なった。現況は山林であったが、隣接の畑地において土師器、須恵器が確認された旨県文化課に副申した。県文化課現地踏査において試掘後の状況によって回答するとのことから、同年9月に試掘を行った。その結果15カ所の内、5カ所において遺構が確認されたので、この旨県文化課に打診し、県の回答をまって、事業者には遺跡が所在する旨回答した。その後の協議において計画変更がむずかしいとのことから、確認調査を実施することとなった。県文化課にこの旨を打診し、今年度の国庫補助対象事業として確認調査を実施できるか確認をとって調査準備に入った。調査は、器材の搬入等を含めて平成3年1月21日～同年3月19日に亘って実施した。（遺跡番号No28）

第2章 各遺跡の概要

第1節 高津新田野馬堀遺跡(第1図・第2図・第3図・第4図・第5図・図版1・図版2)

遺跡の立地 本跡は、現在千葉市との境に位置している。戦前には土手が遺存したといわれるが、現在は壊滅状況である。京成線を隔てた東側には、一部野馬土手及び野馬堀が遺存している。本跡は、小金牧の内、下野牧に位置し、現在の習志野市を中心に放牧されていたと考えられる。今回調査をするにあたって、土手の遺存、堀の構造等に着目して実施した。

調査の方法と経過 調査方法は、土手の遺存したと考えられる部分に直行した方向で、幅2m全長15mのトレンチを3本設定して堀等の遺構の確認につとめた。経過は、平成2年7月3日～7月6日、レベル移動、調査区整備、器材搬入、7月19日～12日、1・2トレンチ掘り下げ及び遺構調査、7月12日～19日3トレンチ掘り下げ及び遺構調査、7月16日～18日セクション実測、17日・19日、トレンチ内平面図作成、19日器材撤収により全作業を終了した。

調査の概要 調査の結果、野馬堀3条を確認した。全容としては、野馬土手の遺存部分に接して1条、更に3.0～3.4m離れた部分に重複して2条確認した。この2条は、野馬土手に近い方が新しく外側が古い。野馬土手に近い堀から1号堀、2号堀、3号堀とする。(第3図)

(1)1号堀 各トレンチにおいて確認、ほぼ一線上となっている。データは、幅3.0～3.8m、底面0.4～0.7mで断面は略片菜研堀状を呈する。即ち、土手側の立ち上がりがきつく、反対側は、緩やかに立ちあがっている。またこの立ち上がり部分は削り出しによって階段状となっている。深さは、ソフトローム上面から1.55～1.6mを測る。標高は、24.4m程度である。

(2)2号堀 1号堀の外側に位置し3号堀と重複関係にある。データは、重複しているため幅が不確定ではあるが、セクション観察から、4.5～4.7m程度を測る。深さは、ソフトローム上面から0.4～0.7mを測る。標高は、25.3m程度である。断面は、ゆるやかな立ちあがりをしめすが、底面は更に掘られており二重の底面を持つ。

(3)3号堀 1号堀、2号堀の外側に位置し、2号堀と重複関係にある。2号堀より古い。データは、幅については、2号堀に切られているため不明であるが、断面観察から1.7m以上はある。断面形は、2号堀に類似し、二重の底面を持っている。深さは、ソフトローム上面から0.9mを測る。標高は25.1m程度である。

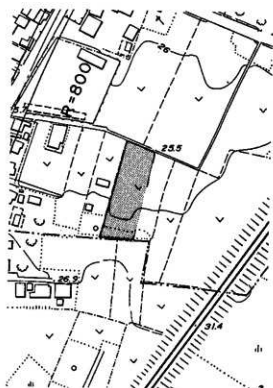
(4)その他の遺構 遺構と呼称でき得るか明確ではないが、2・3号堀の更にも外側で、幅20cm程度の小溝が幅3.2mに亘って確認された。確認されたトレンチは、1・2トレンチで3トレンチ

においては確認されなかった。深さはソフトロームを2～8cm程度掘っている。

堀及び土手の埋没状況等については、1・2トレンチの1号堀部分において土手の横み上げ土と考えられるロームブロック混じりの暗褐色土の堆積が覆土最上層において見られた。(2・3層)更にその下層部(11・14層)においてもロームブロック、ローム粒主体の暗黄褐色土の堆積が見られる。2・3号堀のつくりかえについては、当初外側に位置していた3号堀を内側に縮少してつくりかえている。3号堀は、26層・27層(ローム粒、ロームブロック主体)によって埋められ新たに2号堀がつくられている。その他か3号堀と関連している部分に、28・29層がある。ハードブロック、褐色土を主体とした層で、前述した3号堀外側の小溝と何らかの関係があると考えている。

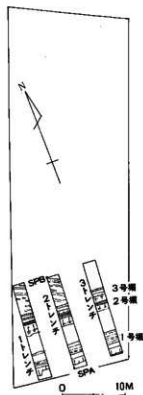
遺物については、検出されなかった。

この調査によって得た知見は、本来野馬土手の外側に位置している調査地において3条の堀を確認した事である。更に2・3号堀のつくりかえと小溝の存在は、野馬除けとしての事情が十分推察される。今後他の地獄において資料の蓄積をはかっていきたいと思う。

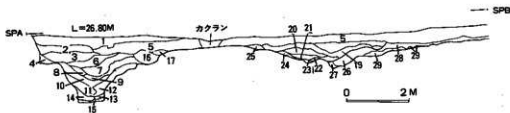


第2図 位置図

(八千代市都市図を転載)
S=1:2,500



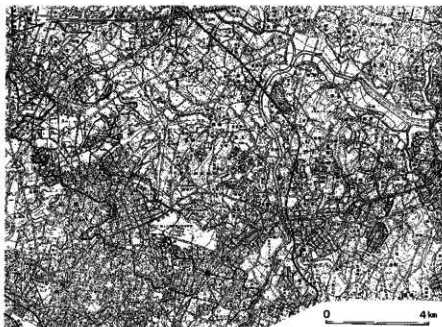
第3図 遺構配置図(S=1:600)



土層説明

1. 黒褐色土 (ローム粒、黒色土粒含む、粘性有り、若干さらさらしている)
2. 暗褐色土 (2-3cm大ロームブロック、ローム粒含む、黒色土粒若干含む)
3. * (2)に比べ若干白色土粒多い、2-3cm大ロームブロック含む)
4. * (全体的にさらさらしており、ロームブロック含まれる灰色土粒若干含む)
5. * (2-3cm大ローム粒含む、さらさらしている)
6. 黒褐色土 (3-4cm大ロームブロック含む、ローム粒若干含む、全体的にさらさらしている)
7. 暗褐色土 (6層に類似、黒色土粒の割合が若干少ない)
8. * (ロームブロック、灰色土粒混合層、若干さらさらしている)
9. * (黒色土粒、ローム粒混合層3-4cm大ロームブロック混入粘性有り、しまっている)
10. * (ローム粒、黒色土粒混合層、ローム粒若干多い、1cm大ロームブロック混入、粘性有り、しまっている)
11. 暗黄褐色土 (ロームブロック、ローム粒主体、全体的にぼそぼそしている)
12. 暗褐色土 (黒色土粒、ローム粒混合層、全体的に灰色土粒の割合が多い5-7cm大ロームブロック混入)
13. * (鉄分、部分的に含むぼそぼそしている)
14. 暗黄褐色土 (11層に類似、ロームブロックの混入が少ない)
15. 暗褐色土 (黒色土粒主体にローム粒若干含む、若干ぼそぼそしている)
17. } かくらん
18. 黒褐色土 (3-4cm大ロームブロック混入、全体的にぼそぼそ)
19. * (18層に類似、ロームブロックは、含まない)
20. 暗褐色土 (黒色土粒主体にローム粒若干含む、5-7cm大ロームブロック全体的に含む、若干ぼそぼそしている)
21. * (20層に類似、ロームブロック含まない)
22. * (ロームブロック、ローム粒主体に黒色土粒若干含む)
23. * (灰色土粒含む、粘性有り、しまっている)
24. * (黒色土粒、ローム粒混合層、2-3cm大ロームブロック全体的に含む、しまっている)
25. * (ローム粒主体に灰色土粒若干含む、しまっている)
26. 褐色土 (ローム粒主体に黒色土粒混合層、3-5cm大ロームブロック混入しまっている)
27. 暗黄褐色土 (ロームブロック主体、暗褐色土粒若干含む)
28. 褐色土 (炭化粒、塵上粒、全体的に含む、粘性有り若干ぼそぼそしている)
29. * (ハードローム主体に暗褐色土粒若干含む)

第4図 2トレンチセクション図(S=1:120)



第5図 下野牧想定図 (国土地理院発行 1:50,000 仕合より転載加筆) 調査地点

*想定ラインは千葉県生産道課詳細分布調査報告書より転載

第2節 高津宮ノ前遺跡の概要 (第1図・第6図・第7図・図版3)

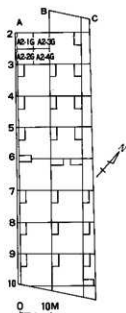
遺跡の立地 遺跡は、南北方向の新川に至る谷津の西側最奥部に位置する台地上で標高25～26mを測る。同台地上周辺での遺跡発掘例は、高津新山遺跡があるが、標高10～14m程度の緩傾斜面に位置しているため、台地上の状況は明確ではない。照会地及びその周辺での現地踏査においては、土師器、須恵器が散見するが、密度は比較的薄い状況である。

調査の方法と経過 調査方法は、南北に長い調査対象区域に10mピッチで任意に方眼杭を設定し、2×4mのグリッドをその間に配し、遺構の確認を行なった。(第7図)経過は、7月31日8月1日器材搬入、グリッド設定、8月2日～6日グリッド掘り下げ、8月3日セクション図作成、8月7日器材撤収により終了した。

調査の概要 基本グリッドについて掘り下げを行ったが、遺構は確認されず、遺物もグリッド中の耕作土内より数点出土したのみであった。更にグリッドを設定し掘り下げたが、遺構は確認されなかったため確認調査を終了した。当遺跡の層序は、基本的には、耕作土下にソフトロームというものである。今回出土遺物は小片のみであったので図示できなかった。



第6図 位置図 (八千代市都市図を転載)



第7図 グリッド配置図
(S-1:130)

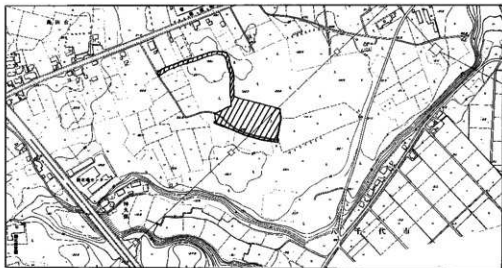
第3節 間見穴遺跡の概要(第1図・第8図・第9図・第10図・第11図・図版4・図版5)

遺跡の立地 遺跡は、南北方向の新川の西岸に至る谷津の北側台地上に位置する。なお、調査地区隣接地において昭和53年11月送電鉄塔建て替えの目的で住居跡が調査されている。時期は平安時代で遺構の半分程度を調査している。(注1)

調査の方法と経過 調査方法は、保存森林及び伐採時期が調整できないため任意の方向でトレンチを設定し下草刈り後遺構確認を行った。経過は、平成3年1月21日器材搬入、1月23日～2月18日6～26トレンチ掘り下げ、2月19日～2月27日1～5トレンチ掘り下げ、2月25日～3月13日27～36トレンチ掘り下げ、3月14日～3月19日補足トレンチ設定、掘り下げ、器材撤収により調査を終了した。

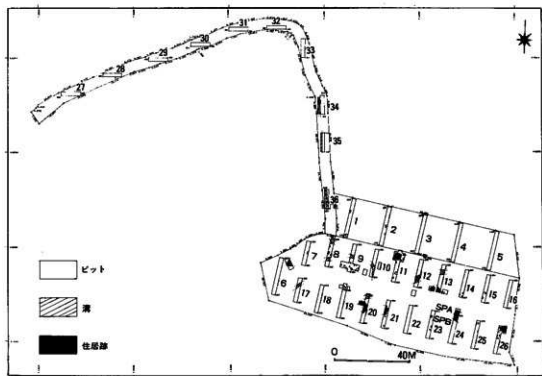
調査の概要 確認された遺構は、住居跡9軒、溝状遺構3条、ピット42口、不明遺構1である。住居跡は、平安時代8軒、不明期1軒で、覆土は黒褐色土を主体とするものと暗褐色土を主体とするものがある。前者には6トレンチ隣り、11トレンチ、24トレンチのもの、後者には、11トレンチの一部確認したもの、13トレンチ、21トレンチ、26トレンチのものがある。また炭化物、焼土が覆土中に確認され焼失家屋と考えられるものが20トレンチより検出された。遺構規模は、一辺が3.2m程度のもの3軒、5m程度のもの4軒と規模にばらつきが見られる。カマド位置は、北壁、西壁中央に見られるものがある。ピットは、円形状のものが主体的である。規模は、0.6～0.7m、1.0～1.2m程度の2種類が見られる。覆土は、黒褐色土主体のもの、暗褐色土(ロームブロック混じり)主体のもの、暗褐色土(淡褐色の荒砂混じり)主体のもの3種類が見られる。ピットの性格は、配置に企画性が確認できないため掘立柱建物跡となるかどうか明確ではない。溝状遺構は、分岐した状態で確認されているが、3条確認した。何れも調査区外に及ぶが、13トレンチ、20トレンチを結ぶラインは、隣接トレンチに、確認されていないので、途中で絶される可能性がある。確認面での溝幅は、1.8～2.2mを測る。12トレンチ溝内にサブトレンチを設定し掘りさげたが、深さは、確認面から0.7mを測った。覆土内からは、須恵器片、土師器片が、多く見られる。この遺跡の基本的層序は、第I層表土層(根等によるカクラン層)、第II層黒褐色土(粘性ありしまっている)、第III層暗褐色土(テフラ及び暗褐色土混合層、全体にしまっているが、粒子はぼそぼそする)、第IV層暗黄褐色土(ソフトローム漸移層)、第V層ソフトローム層となっている。出土遺物は、須恵器は少量で甕、壺が破片で見られるのみである。土師器には、甕、坏蓋、皿、飯等が見られる。また墨書・刻書土器が何点か見られる。「田」、「犬」と判読できる。遺物は、第10図に掲げた。

※注1 東京電力送電鉄塔建設事業に伴う発掘調査報告書 1980年八千代市遺跡調査会・船橋市遺跡調査会



第8図 位置図 (八千代市都市図を転載)

0 200M

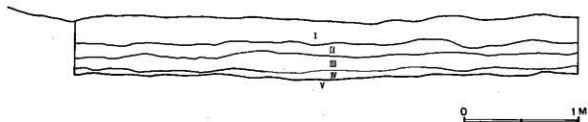


第9図 遺構配置図(1:2,000)

0 40M

SPA L=22.90M

SPB



第10図 土層断面図(23トレンチ0~5M) S=1:40



1. 土脚部厚 口径12.6cm、器高3.8cm、底径6.0cm
2. 土脚部高内付組 口径13.7cm、器高2.6cm、底径7.0cm
3. 土脚部底 通径15.5cm、底径高3.4cm
内面灰色結核

0 10cm

第11図 遺物実測図(S=1:3)

図版1 高津新田野馬堀遺跡



現況風景



トレンチ設定風景



2 トレンチ発掘風景



2 トレンチ遺構確認状況



1 トレンチ完掘状況



2 トレンチ完掘状況

図版2 高津新田野馬堀遺跡



1 トレンチ2・3号堀完掘状況



2 トレンチ2・3号堀完掘状況



2 トレンチ2・3号堀土層



1 トレンチ2・3号堀土層



2 トレンチ1号堀階段遺構



2 トレンチ1号堀土層

図版3 高津宮ノ前遺跡



グリッド設定状況



掘り下げ状況



掘り下げ状況



掘り下げ風景



完掘状況



完掘状況

図版4 間見穴遺跡



2 トレンチ土層



26 トレンチ遺構 (住居跡拡張前)



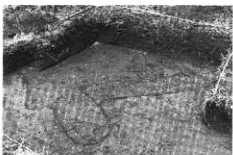
17 トレンチ遺構 (溝)



36 トレンチ遺構 (溝)



11 トレンチ遺構 (住居跡)



26 トレンチ遺構 (住居跡拡張後)

図版5 間見穴遺跡



21トレンチ遺構 (住居跡)



6トレンチ土層



20トレンチ遺構 (住居跡)



2トレンチ遺構 (ビット)



24トレンチ遺構 (住居跡拡張前)



35トレンチ遺構 (溝)

調 査 組 織

調査主体者 大熊章一（八千代市教育委員会教育長）

事 務 局 伊藤勇毅（八千代市教育委員会社会教育課長）

坂田 猛（ " " 課長補佐兼文化係長）

木原善和（ " " 副主査）

小平浩子（ " " 主事）

調査担当者 森 竜哉（ " " 主事）

作 業 員 長岡直雄・橋本富四郎・長岡まさ子・花島のぶ・長岡かつ・岡郷ち似子・深沢はる
長岡スズ・斉藤節子・宮腰和子・花島あやめ・磯江公子・寺島裕子・大谷千鶴
石井シゲ・伊藤正義・小竹三郎・渡辺虎男・関口生造・清水さき・石川たみ
石川春代・山口のぶ・花島トキ・石川定・立石みち・桑原洋子・福谷房子・市川勉
福井昭彦・須田裕之

整 理 員 鈴木亜希子・奥瀬珠生

**千葉県 八千代市
市内遺跡発掘調査報告**

印刷日 1991年3月26日

発行日 1991年3月31日

発行 八千代市教育委員会

印刷 榎八千代印刷